

# くにびき通信

2024年 2月号

大田市山村留学センター 三瓶こだま学園

## はじめに

アルペンスキー活動、寒中キャンプ活動と、冬ならではのハードな活動が目白押しの1、2月。あえて寒い中、外に出ることで、「冬ってこんな景色が見れるんだ」など、思いがけない出会いと巡り合える気がします。忘れてはいけないのは、活動に繰り返し取り組むことで身につく力があること。そして心身に身に付いた力や自分の変化を、しっかり認識することはとても大事だと思います。学業に部活にセンター活動、更には太鼓や神楽と忙しい学園生活ですが、だからこそ余白の時間の価値が光ります。

最近私は、とある古本屋さんで本を手に入れました。印象的なのはブックカバー。店主さんのこだわりで、まるで薬局で受け取るような「薬袋」を模したデザインになっています。そこには「一日 数ページ 服用」「効能 以下の症状に。迷 淋 涙 浸 恋 喜…」など、あらゆる感情が記載されています。本は、様々な感情に寄り添ってくれるということを表しているのかもしれませんが、人間、生きていくだけで様々な感情が湧き上がってきます。暮らしの中で生まれる「迷い」、活動で感じた「淋しさ」…上記のほか、言葉にできない感情もあるかもしれません。そんな瞬間に過ぎ去る流れ星のような感情をしっかりとキャッチして、「自分の迷いの正体はなんなんだろう?」「淋しい時、どうやったら前に進めるのかな」などと考え向き合うことは、自分という人を知り、レベルアップさせるために必要だと思います。

活動中は目の前のことに集中しないといけないため難しいですが、子ども達には帰り道や活動後の自由時間など、余白の時間に振りかえって、是非そういった成果や感情に向き合ってもらいたいなと思っています。もちろん、なーんにも考えないぼーっとする時間も、しがらみを忘れて遊ぶ時間も大事。そう考えると生きる全ての時間が、学びの時間なのかもしれませんね。これは年齢問わず大事なことだと思うので、かくいう私も時間の使い方は考えさせられます。私自身も学び、遊び、人生を味わえる人でありたいです。

指導員 児玉 彩



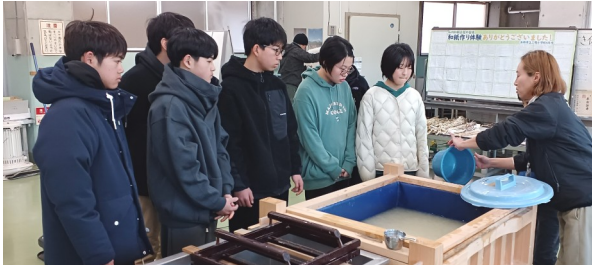
## 今回の活動カレンダー



日にち 2023年	活動内容
1月27日(土) 晴れ	紙すき
1月28日(日) 曇	アルペンスキー
2月3日(土) 曇のち晴れ	親子スキー1日目 豆まき

日にち 2024年	活動内容
2月4日(日) 曇のち晴れ	親子スキー2日目
2月17日(土) 晴れ	寒中キャンプ1日目
2月18日(日) 晴れ	寒中キャンプ2日目

## 紙すき 1/27 (土)



3学期を迎えると、修園のつどいが目前に迫っていることを実感しますね。そんな修園のつどいで学園生達が手にする修園賞の台紙を作るために、この日は浜田市にある「石州和紙会館」様にお邪魔しました。

昔ながらの手すき方法による、和紙作り。石州和紙の主な原料は、楮(コウゾ)・三椏(ミツマタ)・雁皮(ガンピ)と呼ばれる木の樹皮です。長い時間かけて煮詰めた樹皮にトロロアオイという植物の粘液を混ぜ込むと、やっと皆が漉き紙の原材料が完成します。紙すきを行う中で触れるトロロアオイの独特のとろみ、漉き船を水の中で揺らす感覚は、この活動ならではの。気を抜くと漉き船の中に溜まった木の繊維にしわが寄ってしまったりと、簡単に見えて実は繊細な作業になります。石州和紙づくりの職人さんも、現代では数えるほどしかいらっしゃらないのだそうです。歴史ある文化と、作業の奥深さを感じる活動になりました。

## アルペンスキー 1/28(日)、2/3(土)、2/4(日)

今年度のアルペンスキー活動は2月4日の活動を終え、最終的に計5回となりました。スキーに慣れている学園生は「まだまだ滑りたい!」と感じ、初めてスキーを始めた学園生は「これからもっと上達する所なのに!」と感じるタイミングだったかもしれません。それくらい、終盤に差し掛かってきた頃の皆の表情はとてもいきいきしていました。

また、2月3日と4日は親子活動日ということで、保護者と一緒にゲレンデへ赴きました。保護者さんにとっては「こんなに滑れるようになったのか」と驚かされたり、「親子でスキー場だなんていつぶりだろう」と感慨深くなったり、お子さんの滑る姿を見て感じるものがあつたのではないかと思います。

休憩時には西村さんが学園生に、スキー場で販売されていたクレープやたい焼きをご馳走してくださる場面もありました。受入農家でもあり講師でもある大國さんと一緒に滑る学園生には「あの2人も親子スキーしてる!」なんて声も上がったり、「稲井さんと滑る!」と指導員にこっついて滑る学園生がいたり。集まったメンバー皆で和気あいあいと滑り、大家族のようになっていました。

講師の大國さん、来ていただいた保護者の皆さま、ありがとうございました!



## 豆まき 2/3 (土)



大田市山村留学センターの伝統とも言える節分の豆まき。鬼役となる学園生は冬空の下、物語に出てくる鬼の姿そのもので戦います。「鬼のパンツは良いパンツ」という歌があるくらいですから、少なくとも服装は短パンです。ですので必然的に、鬼役を決める戦いは決死の覚悟で行われます。

最終的に鬼役決めの方法は「箸の豆搥み競争」で決まり、その日の夜に戦いが行われました。この日は親子スキー活動のために来訪した保護者もあれよあれよと鬼役決定戦に巻き込まれました。

そうして選ばれた、鬼役の学園生3名と保護者1名。豆を投げられる代わりに、雪玉で応援できる権利がありますので、鬼役も豆投げ役も闇夜の庭を駆け回り、乱戦状態になりました！ たっぷり投げ合ったので、邪は祓われ福が舞い込んだのではないのでしょうか。



## 寒中キャンプ 2/17 (土)~18(日)



キャンプ活動の集大成ともいえる「雪中キャンプ」活動ですが、予定していた両日は快晴、雪のない裏山で行う「寒中キャンプ」になりました。今回のキャンプはソロ(1人)・バディ(2人)での活動、どちらにするかは選択制です。まだ「火起こし出来るか不安」という学園生もいましたが、そんな中でも「ソロキャンプを希望する」「寝床は難易度の高いブルーシートにする」という声が多くあり、「確実性はないけど挑戦してみる！」という皆の姿勢に、指導員も思わず「やるなあ！」と思われました。その気持ちの表れか、何と1日目夜の・2日目の朝共に、どの学園生も火起こしを達成出来ました。調理も「ちょっとアレンジしたい」と工夫を凝らしていて、皆、本当に逞しくなりました。出来なかった事が出来るようになる楽しみに、どんどん味を占めてほしいなと思う2日間でした。



- ◆ 学園生が作ったメニュー ◆
- 【夜】すき焼き・炊き込みご飯  
牛汁・焼きリンゴetc.
- 【朝】炭火焼きトースト  
コンソメスープ・焼きバナナetc.

## 子ども神楽大会に向けて練習中！

収穫祭後から始まった石見神楽の練習。毎年、修園のついでに皆さん披露する目的で行っていますが、今年はまた別の目的もあるようで…？

実は2月25日に開催される「大田市子ども神楽大会」に出場します！農家期間中も綿密に練習を重ね、修園のついでよりも一カ月早い時期ですので、皆必死に練習についていきます。大会当日、果たしてどんな仕上がりになるのか…。ぜひご期待ください。



### 西村崇司のつぶやき

＼みこっぱい／

うかつでした。先日、とある事情で急に子どもたちの食事をつくった時のことです。あり合わせの野菜で煮しめをつくり夕食に出しました。家で作るようにイリコと昆布でダシをとったものの、今どきの子どもたちですから魚臭さのある煮しめは残すかもしれないと思っていましたが完食していたのでびっくり。「煮しめどうだった？」と聞いたら「煮しめってなんですか？」とこちら側が聞きたいことはまったく違ったところでの返事にとまどいました。「大根やにんじんやしいたけを醤油味で炊いたものだがね。農家さん宅でもおかずに出るでしょう」と問い返したところ、「食べますよ。でも煮しめって聞いたことないような…」。煮しめってここの方言？ ほぼ同年代のセンター長に話したところ、「『煮物』って言わないとわからないかも知れないね」。その後、他の子どもたちにも聞いたところ「煮物かな」と返ってきて、今は島根県外で暮らしている家族や親戚に聞いてみても、「煮しめという言葉が久しぶりに聞いた。煮物って言う」とのことなのでセンター長の言が的を得たこととなります。われわれの年代の食卓の定番「煮しめ」「こうこ（大根の糠漬け）」は市民権を得ていないのか。うかつであり少し切なくなります。

さて、煮しめついでに「みこっぱい」の紹介。昨年末に聞いた矢田家の話しです。父さんが、「OGの△△△が毎年便りをくれるけど、この子の名前が出るいつも『みこっぱい』という言葉が話題になる。収穫祭の個人体験発表で『みこっぱい』をテーマにしたことや…」と言い、ほぼ10年ではじめて「みこっぱい」という言葉に出会えたことに感動しました。時を同じくしておじゃました時に母さん手作りの煮しめと漬物をいただき、「ゼンマイやワラビはどうやって塩漬けされるんですか」「煮しめや漬け物をうまく作るコツは」と尋ねたところ、「コツなんかありませんわね。みこっぱいです」のひとこと。みこっぱいはこれぐらいでちょうどいい、目分量といった意味だそうです。かわいくてほんわかした語感に惹きつけられ、一生忘れない言葉になりそうです。そうそう、皆さんは春先に降るふんわりして揺れながら落ちてくる雪をどう言いますか？ わたしは小さいときに覚えた「だんべら」です。わた雪とかぼたん雪とかの言い方もあるのですが、形こそ似ているものの温度があがり水分量が多くなる雪は「だんべら」と確信しています。このだんべら、石見の方言だと思い込んでいましたが実は出雲地方の方言だということを最近知り内心驚いています。ともあれ、みなさんもその土地に残っている言葉に触れて楽しみましょう。

## 「くにびき通信」2024年2月号



大田市  
山村留学センター  
Sanbe Kodama Academy

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694

TEL:0854-86-0700 FAX:0854-86-0701 Email:o-sanryu@city.oda.lg.jp



大田市山村留学センター  
公式ホームページ



くにびき通信  
カラー版